

あじをしめる【味を占める】

- 「社長は売り上げが伸びたことに味を占めて、店舗を拡張することにしたらしい」
- 〈悪事〉一度体験したうまみが忘れられず、同じことをする意。単に、満足したり喜んだりしているのではなく、欲の深さやがめつさを連想させることがある。

① 言いかえ

- 意に適う「意に適った仕事が見つかった」
- 気に入る「二つのうち、A案が気に入った」
- 満足「現在の境遇に満足する」

🔥 ほかの無礼語

いい気 (P.18)

あたいます【値する】

- 「先生の長年の功績は叙勲に値すると思います」
- 「快挙に値する先輩のプレーを忘れません」
- 〈評価〉それに相当すると考えること。プラスの意の語に続け、すぐれたものとして評価するときを使うが、目上の人に対して言うとき失礼なニュアンスを伴う。また、「懲罰に値する」のように、マイナスの意の語にも用いる。↓検討に値する (P.73)・賞賛に値する (P.100)・尊敬に値する (P.118)・注目に値する (P.132)・評価に値する (P.176)

🔥 ほかの無礼語

価値 (P.49)

あたえる【与える】

- 「観客のみなさんに感動を与えるような舞台にしたい」
- 「被害で苦しんでいる人たちに元気を与えたいと思います」
- 「日本の皆さんに勇気を与えるプレーができたと思います」

〈尊大〉「与える」は上の者から下の者へ授ける行為を言う。そのため、「感動を与える」「元気を与える」「勇気を与える」などと使うと、見下した態度や押しつけがましい印象を覚える人も少なくない。

感動、元気、勇気は、懸命に取り組む姿や誠意のこもった発言などに接したことで、自

然に沸き起こる心の動きであり、与えたりもらったりするものではない。「元気になっていただければ」のように、そういう気持ちになるように願う言い方もある。↓感動を与える (P.58)・元気を与える (P.73)・勇気を与える (P.213)

あたりどし【当たり年】

- 「台風の当たり年」
- 〈逆用〉農作物が豊富にとれる年の意から、よいことの多い年をたとえる。事故や災害などが多発した年を言うのは不適切。